



Robotic Increase Center

ロボットビジネスに本気で取り組む新たなプレイヤーを募ります。

ロボットをどうすれば実用化でき、ビジネスとして成り立つことができるのか。ロボットをビジネスにしようとするほど、様々な課題が生まれ、幾多もの壁にぶつかる。

本講座では、そうした一筋縄ではいかないロボットのビジネス化について、実務を通じて考え、経験し、得てきた様々な知見をフル動員して、ロボットビジネスをとりまく国内外の最新動向から、他では絶対に聞けない「本音の話」まで、日本のロボットビジネスの基礎から実践、そして展望までを総合的かつ体系的に解説する。

ロボットビジネスに関心はあるのだけど何からはじめていいかわからない、これからロボットビジネスを新規事業としてはじめたい、今までロボットビジネスに携わってきたけど他社や世界の動向をもっと知りたい、そんなロボットビジネスに関わるすべての方々に十分満足してもらえるよう、真に「骨太のロボットビジネス体系」をめざすと共に、これまでの受講者の意見、要望も踏まえた「本当に知りたい」急所をピンポイントで解説し、次のステップにつながる橋渡しを試みたい。2014年の開講以来、受講をきっかけにロボットの事業を立ち上げたり、事業化の準備やロボットの開発に乗り出す新たなプレイヤーが数多く誕生している。新たなプレイヤーとの情報交換会や勉強会も定期的に開催していく。

小林賢一



ロボットと暮らす上質で新しい生活=ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーション・サイト「ロボカーサ・ドットコム」(2005年～)
夫婦とロボットが繰り広げる大人のコメディ。ロボティック・ドラマ第一幕「Sex Bargain Robot」(2010年、2012年)
ロボティック・ライフスタイル®・ティーチン「男と女 de ロボット」(2012年)
ロボティック・シンポジウム「ロボット関連技術の境界線～発展する無人機の可能性と国際動向～」(2013年)
ロボット保険サービス「ロボットや自動運転車、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険」(2013年～)
日本ロボットビジネス体系講座(2014年～)
ロボティック・シンポジウム「ロボットテクノロジーの劇的進展とベーシックインカム究極の社会保障」(2016年)



講師：小林賢一

認定 NPO 法人ロボティック普及促進センター 理事長
株式会社ロボットメディア 代表取締役

略歴：

2005年 ロボットの調査、マーケティング、コーディネート、プロモーション支援を行う株式会社ロボットメディアを設立。これまで介護、医療、生活支援、住宅、宇宙、レスキュー、パーソナルモビリティ、自動掃除機、パワーアシスト機器、テレプレゼンス、無人機などのロボット関連技術に関する80を超える調査、300人を超えるロボットキーパーソンへの取材を行う。
また、「住まい」と「モビリティ」を中心に、ロボットと暮らす上質で新しい生活=ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーションを紹介する「ロボカーサ・ドットコム」※1、及び、ヒトと機械と社会との関係性を考える「ロボティック・ライフスタイル Journal」※2を運営。
2007年に調査・執筆した「高齢者・障害者の次世代自律支援機器の市場性と介護施設のニーズ分析」が、神奈川県介護・医療分野ロボット普及推進事業(2010年)の基礎資料となり、その後の介護ロボットの普及・実用化につながっていく。

2010年 ある家族とロボットとの20年にわたる物語、「ロボティック・ドラマ 第一幕 Sex Bargain Robot」を作・演出(2012年に英字幕付き映像編集集を製作、上映)
2011年 ロボット関連技術の一層の普及を目指す(N)ロボティック普及促進センターを設立。
同年、かわさき・神奈川県ロボットビジネス協議会事務局業務を開始(～2015年6月)
また、同年から3年間、神奈川県実証実験支援事業の実証実験実行委員会委員長を務め、実証実験の運営手法、安全性の確保など、ロボットが普及していくために必要なノウハウについて、総合的に取りまとめる。
2012年 NPO法人として日本で初めての損害保険代理業務(名称:ロボット保険サービス)を開始し、ロボットやドローンの実証実験、自動運転車のデモ走行、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険や安全に係るコンサルティングを行う。
同年、神奈川県の「県内ロボット関連製品開発・活用状況調査事業」を受託し、ロボットの実用化追跡調査及びロボット関連分野の実態調査を行う。
同年、第一線で活躍する女性ファッションディレクター、コピーライター、作家との対談「ロボティック・ライフスタイル®ティーチン 男と女 de ロボット」を開催。
2013年 「未来世紀ジパング～進化するロボット」(テレビ東京)にロボットジャーナリストとして出演。「日本-ロボットに詳しい男」として紹介される。
同年、無人機に関する日本で初めてのシンポジウム「ロボット関連技術の境界線～発展する無人機の可能性と国際動向」を開催。
同年、神奈川県の「新産業ベンチャー起業化支援事業」プロジェクトにおいて、介護作業等における身体負担軽減(腰痛防止)を目的としたアシストロボットの開発支援、また、京浜コンビナート地区の大手プラント企業からの依頼で、プラント配管の固着物を点検・除去するロボットの開発支援を行う。
2014年 日本ロボットビジネス体系講座を開始。
同年、住宅用作業支援機器の開発支援を行う。
2015年 橋梁点検ロボットのリスクアセスメント、独居高齢者見守り支援機器の開発支援を行う。
同年、関東経済産業局管轄の広域関東圏(1都10県)におけるロボット関連技術に関する行政ヒヤリング調査を実施。
2016年 シンギュラリティを見据えて成長戦略と社会保障を両輪で考えるシンポジウム「ロボットテクノロジーの劇的進展とベーシックインカム究極の社会保障」を開催。
現在、企業、行政、団体、大学などからの相談依頼に多数対応している。
ロボット保険サービス 代表(2012～)。ロボット産業創出推進懇談会 座長(2016～)、かわさき・神奈川県ロボットビジネス協議会 事務局長(2011-2015)。ロボット実証実験実行委員会 委員長(2011-2014)。介護・医療分野ロボット普及推進委員会委員(2010～2012) など。

※1 ロボカーサ・ドットコム <http://www.robocasa.com/>
ロボカーサ・ドットコムにおけるロボットとは一般的なロボットのカタチ(ロボット単体)にとらわれることなく、人間の要求や環境に応じて動いたり、人間の行動を自動的に支援してくれる商品、及びロボットテクノロジーを使ったサービスやシステムのこと。

※2 ロボティック・ライフスタイル® Journal <http://robocasa.seesaa.net/>



日本ロボットビジネス体系講座 2016-2017

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2016-2017

ワレラの時代



ロボットビジネスに本気で取り組む新たなプレイヤーを募ります。

日本のロボットビジネスの基礎から実践、今後の展望まで、総合的かつ体系的に解説。
国内外、分野別、企画から開発、実証実験、商品化に至る全過程を客観的なデータや利活用事例、実体験に基づくわかりやすい具体例を交えて検証。
細かな専門的技術論ではなく、社会環境、ユーザーニーズ、ライフスタイルなど、時代や人々の意識の大きな流れの中でロボットビジネスをとらえる。

開催日(各日 13:30～18:00) 会場:品川オフィスまたは習志野オフィス 定員:少人数制
2016年6月24日(金) / 7月15日(金) / 9月30日(金) / 10月28日(金) / 11月18日(金) / 12月9日(金)
2017年2月24日(金) / 3月17日(金) / 4月21日(金) / 5月19日(金) / 6月9日(金) / 7月14日(金)

主催:認定NPO法人ロボティック普及促進センター 協力:大豊産業株式会社

開催日 (各日 13:30~18:00)

2016年

6月24日(金)

7月15日(金)

9月30日(金)

10月28日(金)

11月18日(金)

12月9日(金)

2017年

2月24日(金)

3月17日(金)

4月21日(金)

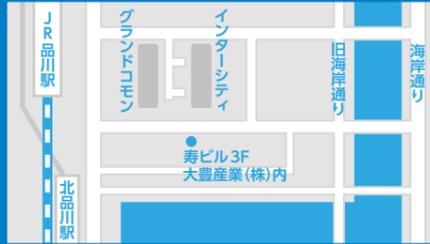
5月19日(金)

6月9日(金)

7月14日(金)

※講座内容は同じですので、ご都合の良い講座日をお選びください。

会場：品川オフィス



東京都品川区北品川 1-11-1 寿ビル 3F
■ JR 品川駅から徒歩 10 分
■ 京急北品川駅から徒歩 8 分

※会場の都合により、習志野オフィス(JR津田沼駅 徒歩5分)に変更になる場合もあります。

I 基礎編

1. 我々は今時代のどこにいるのか、どこへ向かおうとしているのか

- ・ロボットとロボティック
- ・先進技術動向
～IoT、エッジ・コンピューティング、スマートデバイスの先へ～
- ・グラン☆ロボティック
～ヒトと機械と社会との劇的關係性～
- ・ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーション
～ロボットと暮らす上質で新しい生活～
- ・ロボティック・ワークスタイル・オペレーション
～ロボットとの協働により変容する職場・雇用環境～
- ・パブリック・アクセプタンス(社会的受容性)
～心理、倫理、プライバシー～

2. 分野別最新動向(注目すべきロボットを中心に)

- ・生活支援、作業支援、点検・メンテナンス、介護・見守り、医療、産業用(ヒト機械協調)、業務用ドローン、農業、パーソナルモビリティ、極限環境作業、AI(人工知能)など

3. 海外の最新動向

- ・北米(アメリカ、カナダ)、欧州(ドイツ、スウェーデン、デンマーク、オランダ、フランスなど)、アジア・豪州(中国、韓国、オーストラリアなど)、その他(イスラエルなど)

4. 日本や海外のロボット関連施策、地方自治体の動向

5. ロボットのオペレーティングシステム(OS)

6. ロボット産業の分野別国際競争力

II 実践編

1. 現状を知る

- ・国内外のロボット販売台数
- ・一筋縄ではいかないロボットビジネス

2. なにから手をつけていけばいいのか

- ・企画から開発、商品化
- ・ロボットビジネスの財務
- ・コンセプトの明確化、プロダクトの優位性
- ・革新的アプローチ、漸進的アプローチ
- ・失敗する確率の高い例
- ・成功の匂いのする例

3. ロボットにかかわる法律

4. 資金調達方法

5. 実証実験

6. 安全性の確保

- ・本質安全、機能安全
- ・リスクアセスメント
- ・国際認証(CEマーク、ISO13482など)
- ・損害保険
～ロボットや自動運転車、ドローンなどの先進技術の保険(サイバーセキュリティ、アプリ開発に潜むリスク)～
- ・ロボティック・リテラシー
～リスクを共有する社会の醸成、安全パッケージで考える～

7. ケーススタディ

- ・国内企業の最新動向
- ・ロボットを活用したサービス事例
～法人対象、消費者対象～
- ・販売方法、販路、サポート(メンテナンス)比較
- ・海外企業の最新動向
～iRobot、Amazon、Google、Microsoft、Facebook、IBM、intel、NVIDIAなど～

III 展望編

- ・これからの10年
～フレラの時代 グラン☆ロボティックへ～
- ・ディスカッション

申し込み

下記メールアドレスに必要事項を記載の上、お申込みください。

seminasanka@npo-ric.org

件名：日本ロボットビジネス体系講座 受講申し込み

必要事項：受講講座日、氏名、企業機関名、部門、年代、所在地、メールアドレス、電話番号、振り込み予定日、受講理由

料金(税込)：3万円

ゆうちょ銀行(郵便局) 口座からお振込みの場合
(記号) 10530 (番号) 45074781
[名義] トクヒ)ロボティックフキウソクシンセンター

※ゆうちょ銀行(郵便局)以外の金融機関からお振込みの場合
(店名)〇五八(ゼロゴハチ) (店番) 058 (預金種目) 普通預金
(口座番号) 4507478
[名義] トクヒ)ロボティックフキウソクシンセンター

※受講日の5日前までにお振込ください。

※領収書が必要な場合はご連絡ください。

各日とも講座内容は同じ(最新の情報提供)ですので、ご都合の良い講座日をお選びください。

講座終了後、個別相談にも応じます。
シンクタンクやコンサルティング職などの方からの申し込みはお断りする場合があります。

詳細についてはお問い合わせください
otoiawase@npo-ric.org

※ロボットの最新動向を反映する講座にするため、講座内容が一部変更される場合があります。

主催：認定NPO法人ロボティック普及促進センター 協力：大豊産業株式会社

日本ロボットビジネス体系講座 2016-2017

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2016-2017

対象者：ロボットビジネスに興味がある人、ロボットビジネスをはじめたい人、ロボットビジネスに取り組んでいる人。

特に、新規事業としてロボットビジネスを検討している人。

定員：少人数制

企業、自治体、学校、団体機関などで社員や担当者、会員、学生向けに本講座をご希望の場合は、出張講座を行います。ニーズに応じた短時間の目的別講座(例えば、産業用ロボットや介護ロボットなど)も可能です。また、認定NPOならではの客観的で公正なロボットビジネス適正診断「ロボットセカンドオピニオンサービス」(ロボットメーカー選択の妥当性や見積もり額診断、行政コーディネータや企業コンサルタントの業務内容チェックなど)も行っています。

詳細についてはお問い合わせください otoiawase@npo-ric.org

フレラの時代



認定NPO法人ロボティック普及促進センター(RIC)について

ロボティック普及促進センターは、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会の会員有志などが中心になって設立。現在、企業や研究機関、自治体などと連携して、ロボット関連技術の普及促進に関する事業を行っている。

2011年 4月 設立(認証)
2013年 12月 指定NPO法人
2014年 8月 認定NPO法人

ホームページ <http://npo-ric.seesaa.net/>
メールアドレス otoiawase@npo-ric.org

※認定NPO法人とは、「より客観的な基準において、高い公益性をもっている」と所管官庁(都道府県の知事、又は指定都市の長)により認定された法人。個人が認定NPO法人へ寄付をした場合、「寄付金控除」制度が適用され、確定申告をすることで税金の還付(最大50%)を受けることができ、法人の場合は損金に算入できる金額が拡大される。また、相続人が相続財産を寄付した場合は相続税が非課税になるなど、より高い税制優遇が適用される。

日本ロボットビジネス体系講座 受講者アンケート集計結果

受講をきっかけに、ロボットの事業を立ち上げたり、事業化の準備やロボットの開発に乗り出すプレイヤーが誕生しています。

主な受講理由

- ・ロボット市場や他社の動向が気になる
- ・国内はもちろん海外の最新ロボットビジネスについて知りたい
- ・今後 10 年のロボットビジネスのヒントを得たい
- ・ロボットビジネスをはじめたいけれど、どこから手をつければいいかわからない
- ・ロボットの活用事例を探している
- ・ロボットの実用化に関連する法律や社会制度を知りたい
- ・技術的な話ではなく、ビジネスや事業に直結する信頼性のある情報を得たい
- ・ロボットベンチャーやロボット製品を扱う企業を知りたい
- ・ユーザー導入事例を知り、自分たちのサービスと協働したい

受講者の感想

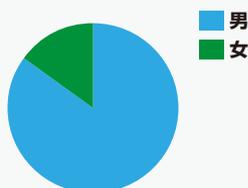
期待以上

期待通り

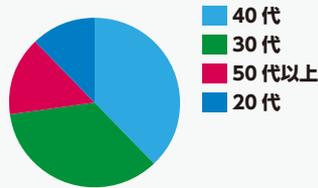
その他

- ・想像していた以上にビジネスの観点から具体的な考え方を学ぶことができた。(金型成型メーカー営業部・20代男性)
- ・他では知り得ない情報が満載だった。(インターネットサービス・30代男性)
- ・ロボット産業全体の流れ、展望など、まさにロボットビジネスの「体系」を学ぶことができた。(情報コンテンツ配信企画開発部門・40代男性)
- ・膨大な資料(情報)の提供は今後のビジネスを考える上で大変参考になった。(インフラ電気通信エンジニアリング経営・60代男性)
- ・ロボット産業の現状について包括的に知ることができた。(人材派遣・20代男性)
- ・バラバラだった知識をまとめて再度学ぶことができた。(半導体機器メーカー販売部門・40代男性)
- ・ロボットビジネスの難しさを実感できたが、逆にあきらめずにやっという気になった。(ICTソリューション新規事業部門・40代男性)
- ・大きな枠での話で大変有意義だった。ビジネスの急所をイメージできた(自動車用電子部品メーカー・30代男性)
- ・具体的なアプローチ方法について学ぶことができた(航空宇宙機器メーカー営業部門・30代男性)
- ・自分では調べきれない情報や傾向などが効率良くまとまっていた。(住宅建設メーカー研究開発部門・30代女性)
- ・これからロボットビジネスに関わっていく方に向け、いくつかのアプローチを平易に解説していた。半日で現状のサービスロボット分野の動向を整理することができ、大変お得だった。講義のブレイクダウンの仕方もとても良かった(新聞社IT部門・40代男性)
- ・日本だけでなく欧米の最新情報を収集することができた。(精密加工メーカー経営・50代男性)
- ・長い経験に基づく体系的な内容だった。(ICTソリューション新規事業部門・30代男性)
- ・ロボットの最新のデータを得ることができた。(地方自治体職員・40代女性)
- ・講座で学んだことはすべての企画に当てはまる。コトを起こすことに必要な考え方。ロボット産業を含め、どのように我々の生活に応用し、人々の生活の質を向上させ、ビジネスとして成り立たせるか、考えたい。(電子機器開発メーカー経営・40代男性)
- ・同じ内容で複数回開催されていたので、参加しやすかった(産業用ロボットメーカー技術開発部門・20代女性)

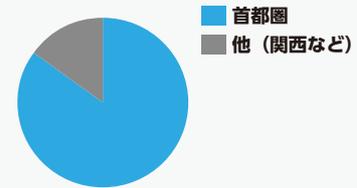
性別



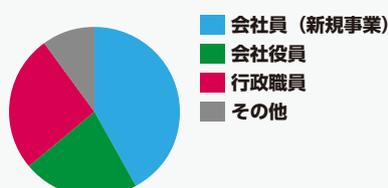
年齢



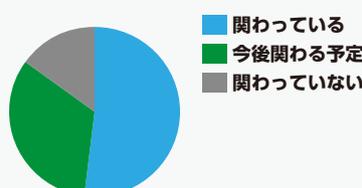
住まい



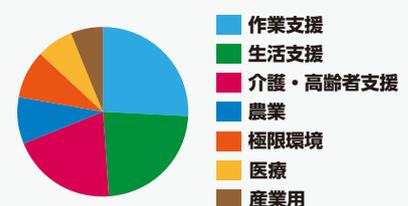
職業



ロボットビジネスとの関わり



関心のあるロボットビジネス分野





FAX 047-493-2490

認定NPO法人ロボティック普及促進センター

日本ロボットビジネス体系講座 2016-2017 申し込み書 (FAX用)

■ 講座日 (受講を希望する日に☑をいれてください。)

2016年

6月24日(金) / 7月15日(金) / 9月30日(金) / 10月28日(金) / 11月18日(金)
 12月9日(金)

2017年

2月24日(金) / 3月17日(金) / 4月21日(金) / 5月19日(金) / 6月9日(金)
 7月14日(金)

■ 振込予定日

月	日
---	---

※受講日の5日前までにお振込ください。

氏名 (ふりがな)

年代

男性・女性

企業・機関名/部門 (役職)

所在地

メールアドレス

電話番号

受講理由

※FAX 受信後、確認のメールを上記メールアドレスにお送りします。